

「深層崩壊のメカニズム解明に関する現状報告(平成25年6月公表版)」の要旨

奈良県県土マネジメント部深層崩壊対策室

奈良県では平成24年2月1日に深層崩壊研究会を設置し、3月26日に策定した「奈良県紀伊半島大水害復旧・復興計画」の「安全・安心の備え」における深層崩壊のメカニズム解明と対策研究を進めております。

この度、紀伊半島大水害で発生した深層崩壊54箇所¹の現地調査が完了し、明らかになってきた特徴を報告します。

○紀伊半島大水害で発生した深層崩壊の主な特徴

- ◆ 深層崩壊54箇所のうち、39箇所(72%)が流れ盤構造の斜面で発生(P19)
- ◆ 深層崩壊54箇所のうち、35箇所(65%)が北向き(北東～北～北西)斜面で発生(P21)
- ◆ 深層崩壊54箇所のうち、36箇所(67%)が山頂付近になだらかな地形の分布する斜面で発生(P24)
- ◆ 深層崩壊54箇所のうち、41箇所(76%)が過去の崩壊跡地が存在する斜面で発生(P25)
- ◆ 明治22年の明治十津川大水害時に発生した深層崩壊(28箇所)の調査も実施し、同様の傾向を示すことが判明(P19,P21,P24)

[留意事項]

本報告は、平成25年5月末時点までの調査結果に基づいています。

なお、本報告内容は、「深層崩壊のメカニズム解明に関する現状報告(平成25年2月公表版)」の資料に追加・更新を行い、平成25年6月公表版として公表します。

「深層崩壊のメカニズム解明に関する現状報告(平成25年2月公表版)」の要旨 (参考)

奈良県土木部深層崩壊対策室

奈良県では平成24年2月1日に深層崩壊研究会を設置し、3月26日に策定した「奈良県紀伊半島大水害復旧・復興計画」の「安全・安心の備え」における深層崩壊のメカニズム解明と対策研究を進めております。

この度、深層崩壊研究会において、紀伊半島大水害で発生した深層崩壊の特徴について、平成24年度の調査結果をとりまとめました。

○紀伊半島大水害で発生した深層崩壊の主な特徴

・地質の特徴 : 四万十帯、秩父帯、三波川帯と呼ばれる付加体で多発

・斜面の特徴 : 地層が流れ盤の斜面で多発

北向き斜面で多発

山頂付近になだらかな地形が見られる斜面で多発

多数の崩壊地において、崩壊発生前の斜面に崩壊跡地の存在を確認

・累積雨量 : 600mm以上の累積雨量で発生

[留意事項]

本報告は、平成25年2月時点の調査結果であり、今後の調査・研究の進捗に合わせて更新していく予定です。